

経済産業省
北海道経済産業局
新規採用職員案内 2026

未来に誇れる日本をつくる。
Build Our Future





地域経済部 宇宙航空産業室

係員 (2022年入局)

主なキャリアパス

2022年 入局 資源エネルギー環境部 資源・燃料課

2024年 地域経済部 製造・情報産業課

2025年 地域経済部 次世代産業課 宇宙航空産業室



資源エネルギー環境部 電力事業課

係員 (2022年入局)

主なキャリアパス

2022年 入局 資源エネルギー環境部

資源エネルギー環境課

2023年 産業部 中小企業課

2024年 資源エネルギー環境部 電力事業課

幅広く産業を支援し、北海道を盛り上げたいと思い入局しました。

最初の2年間は資源・燃料課で、鉱山開発に関する手続きを担当。現場の実情を踏まえながら、法律を適切に運用する力を磨きました。北海道の資源開発の歴史は長く、石炭採掘の最盛期から半世紀以上が経つ現在も、石炭・石灰石・石油・天然ガスなどの採掘が続いています。出張先は鉱山(ヤマ)。調べる文書は数十年前のもの。長い歴史の中に飛び込み、現場で仕事をした経験は、別の部署へ異動した今でも大きく役立っています。

現在は、宇宙・航空機・ドローンといった新しい分野で挑戦する道内企業を支援しています。展示会への出展支援、セミナーやイベントの企画・運営、専門家や人材とのマッチングなど、企業の“次の一步”を後押しするのが私の役割です。

2025年4月には「宇宙航空産業室」という専門部署が新設され、宇宙産業の支援体制を強化しました。大樹町ではロケット打上げ施設(宇宙港)の建設・整備が進んでいます。私達は現在、北海道の宇宙産業発展のために必要な周辺産業やサービス集積を進めるにはどのようにアプローチすべきか、国内外の宇宙産業先進事例を調査しながら、様々な支援策を検討しています。

私は大学で理科教育を専攻していたことから、理系職員として採用されました。学生時代に培った理系の視点は、現場を見る目や物事を論理立てで考える力として、教育の視点は、難しいことをわかりやすく伝える力として活かしていると感じます。この職場の魅力は、知らなかったことを次々と学べることです。企業や自治体、大学など多様な関係者と関わる中で自分の視野が広がり、成長を実感できます。さらに、若手でも自分で支援策を考え、実行に移せる。そんな経験ができるのも、この仕事の醍醐味です。

北海道から未来の空を切り拓いていきたい。そんな思いを持った皆さんと、一緒に仕事ができたら嬉しいです！

私は化学系の工学部出身で、理系の知識を持ちつつも、ひとつの分野にとらわれず、地域の食や産業・エネルギーなど多角的な視点から北海道に貢献したいと考え、経済産業局を志望しました。

入局当初はエネルギー全般を所管する部署に所属し、なじみのない言葉に戸惑いながらも、毎日が学びの連続でした。2年目には中小企業支援を担当しました。特に、自然災害等への事前の備え、事後のいち早い復旧を見据えたBCP(事業継続計画)の策定支援や電話相談、企業訪問を通じて、現場のリアルな課題に向き合う経験を積みました。このとき、相談者から「ありがとう」と言っていただけた瞬間は今も忘れられず、行政の仕事が多くの方に届いていることを実感し、大きなやりがいを感じました。

3年目以降は電力事業課で、発電所が立地する自治体の地域振興を担当しています。特に脱炭素エネルギーの導入促進に向けて自治体と対話を重ね、地域の課題やニーズを踏まえた事業の企画・立案を進めています。発電所は電力の安定供給に欠かせない存在ですが、地域の理解がなければ円滑な運転は実現できません。エネルギー政策に協力いただいている地域の皆さんに「この発電所が地域の活性化につながっている」と実感していただけるよう、丁寧な支援を心がけています。大学時代は「企業や自治体と連携して地域の魅力づくりに取り組みたい」という思いを漠然と抱いていました。現在の業務は、当時の自分の思いを少しずつ形にすることができる環境で、とても魅力を感じています。

理系出身でも分野を越えて活躍できる柔軟な体制が整っており、専門性と現場感覚の両方を磨ける職場です。また、当局は若手でも現場に出て挑戦できる風土があり、上司の手厚いサポートもあるため、安心して現場に出ることができます。皆さんもぜひ、北海道の未来を支える政策の現場で、自分の思いを形にする仕事に挑戦してみませんか？



地域経済部 知的財産室

係員 (2021年入局)

主なキャリアパス

2021年 入局 資源エネルギー環境部
資源エネルギー環境課
2022年 総務企画部 電力・ガス取引監視室
2024年 地域経済部 産業技術革新課 知的財産室

「北海道経済産業局」と聞いて、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか？
当局の職員に聞いても様々な答えが返ってくるのですが、このイメージが一つに定まらない「業務の幅広さと自由さ」こそが、経済産業局の一番の魅力だと私は思います。

私は入局2～3年目に、電気・ガス料金の監視を行う部署に配属されました。2016年に電気、2017年にガスの小売が全面自由化されたことを受け、適正な取引を確保するという観点から、ガス事業者に対するヒアリングや書類審査を行うガス事業監査業務を担当しました。専門性が高く始めは難しさを感じましたが、私たちの生活に密接に関係するエネルギーについての理解が深まり、非常に充実した時間だったと感じています。この業務に従事するうち4ヶ月間は、経済産業省本省に長期出張し、電気の託送料金(※)を設定する新たな制度「レベニューキャップ」という仕組みの導入に伴う審査を担当しました。国全体のエネルギー施策のスケールの大きさやスピード感到に驚きましたが、貴重な学びの機会となりました。

※託送料金：電気料金のうち、送配電に関する料金

そして現在は、特許権や商標権、意匠権といった知的財産権に関する業務を担当しています。中小企業等が持つ技術やブランドを保護するため、知的財産権の取得促進や、海外展開を目指す企業の外国出願支援、商標・デザインを活用した地域ブランド化の支援等を行っています。また、デザインの力をブランド構築やイノベーション創出に活用する経営手法である「デザイン経営」の推進も行っており、道内各地でセミナーを開催したり、道内企業の取組をまとめた事例集を作成したりもしています。

このように、同じ組織でありながら部署によって全く異なる業務を経験できるのが当局の魅力で、特に若手に対しては自分のやりたいことを尊重してくれる雰囲気があると感じています。熱い思いを持った方は大歓迎ですので、是非一緒に北海道のために働きましょう！



経済産業省 商務情報政策局 サービス政策課

係員 (2020年入局) 本省出向中

主なキャリアパス

2020年 入局 総務企画部 会計課
2022年 産業部 経営支援課
2024年 出向 経済産業省 商務情報政策局 サービス政策課

私は入局後の2年間、会計課で契約や調達部門を経験した後、経営支援課で商店街支援事業に携わりました。

コロナ禍で人流が制限されたことで、多くの商店街が苦境に立たされていました。もう一度商店街に活気を取り戻したい、という熱意を持つ関係者の方々の思いを、情報面の支援や補助金というツールで実現に近づけることが我々の役割です。特に補助金の執行には多くの制約がある中で、どうすれば地域にとって本当に効果的な支援になるかを現場の皆さんと日々相談しながら進めました。その結果、「経産局の支援がきっかけで新しい挑戦ができた」という声をいただき、私自身、北海道内各地に思い入れのある場所が増えた2年間でした。

現在所属している本省サービス政策課は、サービス産業全体の生産性向上をはじめ、EdTechなどの先端技術を活用した教育サービス産業の振興、スポーツ関連産業の活性化など、幅広い分野を所管しています。その中でも私は葬儀業や結婚式場業のほか、家事支援サービスなど様々なサービス産業高付加価値化、人手不足に対応する施策の企画立案を行っています。例えば、働き方が多様になり共働きが増加する中で、家事支援・ライフデザインサービスの重要性が日増しに高まっていることから、諸外国では一般的なこれらの産業を国内で普及するための施策を進めています。本省は地方局では経験できない予算折衝や国会対応などの業務があるほか、関係者の数もスケールも大きく毎日が学びの連続です。全国から集まった出向者との交流も刺激的で、視野が広がるのを実感しています。東京での生活は初めてですが、趣味の推し活を楽しみながら首都圏の音楽フェスに参加したり、同僚との旅行など今しかできない経験を満喫しています。

経済産業局は、若手の挑戦を歓迎し個性を尊重してくれる職場です。自分は担当外だから…という枠にとらわれずに手を挙げれば、周囲も背中を押してくれます。私も1～2年目の会計課時代に有志として別部署の事業に参加したり、本省出向中の現在も、本業とは別に食文化産業のエコシステム化に向けたプロジェクトに取り組んでいます。何事にも興味を持ち、北海道の経済をより良くしたいという思いで取り組める方と、ぜひ一緒に働きたいです。



資源エネルギー環境部 資源エネルギー環境課

係長 (2010年入局)

主なキャリアパス

- 2010年 入局 産業部 産業振興課
- 2012年 産業部 中小企業課
- 2014年 出向 福島県広野町
- 2015年 総務企画部 会計課
- 2016年 出向 経済産業省 製造産業局 自動車課
(係長昇任)
- 2019年 総務企画部 総務課
- 2020年 地域経済部 製造・情報産業課
- 2021年 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課
- 2023年 出向 札幌市内 小売・流通企業
- 2025年 資源エネルギー環境部 資源エネルギー環境課

入局してからあつという間に16年が経ちますが、どの場面を振り返っても人とチャンスに恵まれた環境だったと感じています。

入局から5年目で、福島県の広野町にて復興支援に従事しました。当時は東日本大震災から4年が経つ頃。出向者の立場ではありましたが、幸せな帰町とはなにか、町の未来をどう描いていくかという町民の想いを自分なりに考え続け、町の人と一緒に実現に近づける仕事でした。それまでも地方の声を直接聞く機会は多かったですが、改めて国の立場でなければならないことは何かを強く意識するきっかけとなりました。本省では自動車リサイクル法を担当。自動車の適正な処理を考え制度を整えることは、自動車産業基盤を強くすることに繋がります。海外出張で諸外国に対して日本の制度を普及するなど、基幹産業の舵取りの一端に携われる貴重な経験でした。

北海道に戻り、製造業の省人化の普及、企業の省エネ促進や道内の新エネ導入促進を担当した後、官民交流制度に基づき札幌市内の小売・流通企業に出向しました。経営判断までのプロセスなど、民間企業と国では仕組みが大きく異なります。ですが、「何の目的で、誰のためにサービスを提供するのか」を自問するプロセスはどんな仕事も共通です。そうして考え抜いて開発に携わった商品が、売上やお客様の声となってダイレクトに評価されるのは、厳しくも楽しくもありました。官民交流制度は局内でも限られた職員しか経験できないものですが、自分の経験を発揮しつつ、反対に民間企業の経営手法を学んだ2年間は今後自分の強みになっていくと感じています。

そして現在は、道内でGX(※)の普及を担当しています。洋上風力や太陽光、原子力といった大きなプロジェクトのほか、中小企業の省エネなども含まれる幅広い取組です。北海道が有するポテンシャルを最大化するためには多様なプレーヤーとの協力が必要で、これまでの経験を活かして局内外を走り回る日々は大変充実しています。

当局は外部出向も含め、色々な事に挑戦できることが特徴です。あのときの知見が全く別の業務で活かされていく。そういった面白さがあります。多くのことに興味を持ち、前向きに取り組んでいける皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

※ GreenTransformationの略。化石燃料中心の産業・社会構造をクリーンエネルギー中心に転換し、社会経済システム全体を持続可能な形に変革していく取組。



地域経済部 食・観光産業課

課長 (2000年入局)

主なキャリアパス

- 2000年 入局 総務企画部 企画課
- 2002年 地域経済部 地域経済課
- 2003年 地域経済部 製造産業課
- 2005年 産業部 中小企業課 (係長昇任)
- 2008年 出向 経済産業省 経済産業政策局 産業再生課
- 2010年 出向 中小企業庁 事業環境部 金融課
- 2012年 産業部 新事業促進室
- 2014年 地域経済部 産業技術課
- 2016年 産業部 産業振興課
- 2018年 総務企画部 総務課
- 2019年 産業部 中小企業課 (課長補佐昇任)
- 2023年 出向 道内自治体 (市役所)
- 2025年 地域経済部 食・観光産業課長 (課長昇任)

今、日本経済は「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への転換期を迎えており、ローカルの視点では「持続的に成長できる地方経済・産業」の実現が必要です。この大事な局面を切り開いていくため、私達は「地域経済の未来を共に創る仲間」を求めています。

私は、日本経済をリードしていくポジティブな雰囲気に着かれて民間企業から転職しました。これまで、中小企業の経営支援、所管業種の振興などの産業振興分野のほか、総務課等のバックオフィス系、本省では日本の産業活力再生に必要な制度設計(法律改正や税制改正)、基礎自治体への出向では市民対応や議会答弁など、多岐にわたる経験をしてきました。また、北海道胆振東部地震やコロナ禍の中小企業支援といった災害・危機対応では、いざという時に地域企業の事業継続や雇用を支える業務にも携わってきました。

現在は、食・観光産業課において、北海道の基幹産業である「食」と「観光」の成長産業化を目指し、食分野においては輸出拡大、生産性向上、新技術の活用による付加価値向上、観光分野においては地域資源を活用した観光のブランド化などに取り組んでいます。

当省は若手に仕事を任せる文化があり、若い時からやりがいを感じられやすいのは大きな特徴です。異動のたびに新しい知識やスキルが必要となりますが、研修機会は豊富にあり、さらに自ら情報を集め創意工夫を行うことで、幅広い視野、総合的なキャリア形成に繋がっています。また当局は、民間企業や自治体からの出向者、他機関からの転籍者など、多様なバックグラウンドを持つ職員が集まり、それぞれの強みを活かしながらチームとして課題解決に取り組んでいます。この多様性が組織の大きな強みです。「もっと北海道や日本を元気にしたい」という志を持つ仲間と、地域の未来を一緒に創っていきませんか！



Q1. 経産局/産業保安監督部を志望した決め手は？



一言で言うと、いろいろな分野に広く関わることが出来るからです。食産業や情報産業など「〇〇産業」呼ばれる多くの事業分野を支援する前向きな仕事ができるため、自分自身を飽きさせず、常に新鮮な気持ちで楽しく仕事が出来ると思い志望しました。



生まれも育ちも北海道で、地元貢献できる仕事があったと思っていました。いくつかの官庁の説明会に参加する中で、経産局の職員が自分の仕事に誇りを持ち、生き生きと働いていることが伝わり、私もこのような環境で地域のために働きたいと強く感じ、志望するようになりました。



所管する業務の幅広さが決め手でした。経産局は、地域・企業の支援、エネルギー関連など30近い部署があります。入局前に興味のある分野だけではなく、入局後も異動を通して新分野に取り組みながら自分の興味を広げていける点に面白さを感じ、好奇心旺盛な自分の性格に照らしても、長くやりがいをもって働けると感じました。



(産業保安監督部) 国民の暮らしを電力・ガス・鉱山などエネルギーの観点から支えるという業務に魅力を感じ志望しました。また、デスクワークだけでなく現場に出向く立入検査などの動きのある仕事ができたり、研修が充実していることも魅力的でした。

Q2. どんな先輩が多いと感じますか？



「周りをよく見ている先輩」でしょうか。入局して間もない頃、分からないことだらけで戸惑いながら仕事をしていたら、多くの先輩方が一つ一つ丁寧に教えてくれました。職場にすぐ馴染めるようにたくさん話しかけてくれる先輩も多く、ありがたかったです。



ベテランから若手まで、柔軟な考えを持った方が多い印象です。新しいことに挑戦し続け常に最善を求め続ける、経産局スピリット(?)のようなものをいろいろな先輩から感じます。



気さくな先輩が多く、わからないことや疑問に思ったことも気兼ねなく相談できる雰囲気があります。ちょっとしたことで声をかけやすく、安心して仕事に取り組める環境だと感じています。



所属にとらわれず、局内全体で広くコミュニケーションをとっている先輩が多く、業務における情報交換もスムーズに行われていると感じます。局内イベントなどでも、部署の垣根を越えてフラットに会話されている様子をよく目にし、風通しの良さを実感しています。一年目の私たちにも声をかけていただく機会が多く、開かれた雰囲気の中で業務に取り組むことができます。

Q3. 当初イメージしたこととのギャップは？



座談会などに出席した際に、業務効率化が進んでいるという印象が元々あり、公務員にありがちな非効率・融通が利かないといった印象はあまりありませんでした。実際に働いてみると、効率化に意欲的で前向きに改善に取り組む職員が思っていた以上に多く、良い意味でのギャップがありました。



随所に柔軟性があることです。ある業務は、1年目の私でも主体的に携わることができるよう、上司が従来の役割分担を大幅に見直しました。仕事の内容だけでなく進め方まで、一人一人が当事者意識を持ち、一からつくり上げていくプロセスは、入局前に思っていたよりもさらに進んでいると感じます。



若手の意見を積極的に求め、受け入れてもらえる環境です。自分から手を挙げれば挑戦を後押ししてもらえる空気があります。また、デスクに長時間座って同じ作業にあたるイメージも多少あったのですが、外勤や事業者の方と接する機会も多く、入局前に想像していた以上に多様な業務に携わることができる点に驚きました。



“公務員”というカッコリしたイメージと異なり、気さくな方ばかりでコミュニケーションが活発な点です。配属先はエネルギー担当部署で、元から知識があったわけではないのですが、上司に聞きやすい環境で丁寧に教えてもらえるので、入局時に抱いていた不安はすくなくなりました。

Q4. 就活生へのメッセージ！



就職活動中は先の見えない長いトンネルを進んでいるかのような気持ちになるかと思います。しかし、毎日少しずつ歩んでいけばいつか出口が見えます。焦らず無理せず、自分らしく突き進むことできっと後悔のない決断に行き着くはずですよ。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！



目の前にはたくさんの選択肢があり、自分に合った職場を選ぶことに悩む人も多いと思います。当局も含めて各官庁の説明会や座談会に積極的に参加し、そこで働く自分をイメージしながら、検討してみるのをおすすめです。幅広い選択肢の中から、当局を志望していただけたら嬉しいです！

ちょこっと

Data



北海道経済産業局の職員

北海道経済産業局の職員数は約190名。

「事務官：技官」割合は3：1で

約50名の技官が活躍中。

このほかのデータはこちら
>>組織紹介・パンフレット



経済産業 “技官” の活躍

産業部 産業振興課 課長補佐

当局は約50名の技官が活躍しています。

(2004年入局)

学生時代に理系学問を学んだ職員に、

経産局の魅力を聞いてみました。



技術的な知識や経験の下地を身につけたみなさんが活躍 できるフィールドが数えきれないほどある

Q1. 公務員・北海道経済産業局を目指した理由は？

電子工学を専攻し修士課程に進んだのですが、研究のように時間軸が長い仕事よりも、自分が社会の役に立っていることが少しずつでも実感できる仕事をしたいと思ったのがきっかけです。そう思って行動（＝大学院を中退…苦笑）に移したタイミングで目の前にあったのが公務員試験で、夢にもする思いで受験したのを覚えています。

技官向け官庁合同説明会の印象で経産局を目指すことに決めました。いま振り返ると勢いだけで決めていたような気もしますが、採用してもらえて本当によかったです。

Q2. これまでのキャリアパスを教えてください

係員の頃は電気保安行政からスタートし、電源地域（電力の安定供給に重要な設備が立地する地域）の振興業務、会計・予算業務を経験しました。

本省出向時は、国際会議の運営業務で外務省に勤務した後、資源エネルギー庁に異動。東日本大震災の前後にエネルギー政策を担当する部署に身を置いていたことは、自分のキャリアにとって非常に大きな経験です。経産局に帰任後は、道産食品の輸出拡大、観光関連産業の振興、産業人材育成や物流効率化の取組のほか、2018年のブラックアウト発生時の対応など、エネルギーの安定供給関連業務に携わっています。

Q3. これまでの経験でどんな業務が魅力的でしたか？

電気保安行政のように社会の基盤を支える仕事から、再生可能エネルギーを活用した最先端の水産養殖技術開発など、かなり幅広い業務を経験しそれぞれ違う（違いすぎる）魅力があって絞るのは難しいです。ただ、経産局では2年程度で部署異動があり、自分の前任・後任や関係者がバトンをつないで数年かけて成果に結びつくというプロセスは多くの仕事に共通しています。

どんな仕事でも、自分がそのプロセスに欠かせない一部になれるというのはこの職場の魅力だと思います。

Q4. 経済産業局で求められる技術系人材の力とは？

世の中のありとあらゆるものに「技術」が活かされていることを経産局で働いて実感しました。GXや半導体など、いま北海道で動いている大型プロジェクトだけを取り上げても、この先の社会において「技術」の重要性がますます高まるのは確実です。

技術を突き詰めることに挫折（＝大学院を中退…（再掲））した自分が言っているのかわかりませんが、学生の頃に技術的な知識や経験の下地を身につけたみなさんが活躍できるフィールドが、経産局には数え切れないほどあります。

Q5. 公務員を目指す若者へメッセージ

“未来に誇れる日本をつくる。”

経済産業省のミッションです。私達と一緒に、北海道から未来をつくっていきましょう！

～経済産業省の地方機関紹介～

北海道産業保安監督部とは？

北海道産業保安監督部 保安課

係長（2017年入部）



産業保安監督部は社会インフラのうち電力、ガス（都市ガス、LPガス）の保安及び産業のうち鉱山、火薬類、石油コンビナートの保安を監督している組織です。

事業者が法令に則って施設を維持・管理しているかを申請書や現場に行き確認します。

私は現在、保安課に所属し、北海道管内で火薬類を製造している事業者を監督するとともに、法令手続きが北海道庁及び札幌市に権限委譲されているLPガス、高圧ガス、石油コンビナートについて、3機関で連携して保安監督をしています。

今の部署の前には、経済産業省（本省）に出向し全国の鉱山を監督する部署にいました。そこでは、審議会の運営、予算の要求などの業務を担当していました。本省は同世代の若手の職員が多くとても明るく仕事がしやすい環境でした。

北海道産業保安監督部はベテラン職員が多く、分からないことがあっても聞きやすい雰囲気です。日々勉強しながら業務を進めています。

監督部に入る前に業務の知識などを知っている必要はありません。入ってから業務に関する研修を受講する機会が数多くありますし、日頃、先輩から教わりながら仕事を行っていく中でも、自然と身に付いていきますので心配はありません。ですので、ぜひ安心して産業保安監督部に入ってもらえればと思います。

皆さんと一緒に働ける日をお待ちしています。



研修ロードマップに基づき、行政官に求められる知見を広げる多様な機会を役職階層ごとに提供

	係員	係長	課長補佐	管理職
局内研修	広報・企業財務・プレゼン・企業支援 ・会計制度・プロジェクトメイク など		マネジメント、リスク管理 など	
	幅広い知見を得るための横断的セミナーやBBL (DX、GX、地方創生に関する経営者セミナー、所管分野の現地研修)			
階層別研修	新規採用職員研修 2年目職員研修	係長研修	課長補佐研修	管理職研修
政策別研修	経済産業省全体で実施			
	◆政策立案系（知的財産制度、中小企業相談官、統計応用、まちづくり人材育成…） ◇執行系（貿易管理、工業用水道基礎、新エネルギー、割賦販売法…） など			



新入職員研修 @経済産業省本省
@経済産業研修所（いずれも東京都）



産業インフラ現地研修（発電所訪問）



配属部署に関係なく他部署業務を経験する
「局内インターン」
（親子向け 宇宙産業啓発イベント運営）



プロジェクト組成研修



みんなの経験談BBL



「BBL」～ Brown Bag Lunchの略。
業務の打合せや知識習得のための研修で
はなく、お昼ご飯を食べながらの気軽なデ
ィスカッションを目的とした集まり。

Organization 経済産業省の地方組織



経済産業省には、経済産業政策の遂行を担う2つの地方組織、「経済産業局」と「産業保安監督部」があります。

北海道経済産業局は、経済の好循環と地域産業の発展を支え、北海道産業保安監督部は、電力・ガス・鉱山等の分野の産業保安や労働者の安全確保を担っています。

北海道経済産業局と北海道産業保安監督部は、同じ経済産業省の地方組織として、採用後の新人研修を合同で行ったり、人事交流を進め、共に地域の産業基盤強化に取り組んでいます。



Workstyle 働きやすい職場づくり

仕事と家庭の両立支援



未就学児を養育する職員が1日最大2時間まで勤務時間を短縮できる「育児時間」制度、小学3年生までの子の看護のための「看護休暇」（1年間で5日まで）などが整備されています。また、男性職員が取得できる「配偶者出産休暇」、「育児参加休暇」、「育児休業」などの取得も進んでいます。



男性の育児休業取得
平均33日

女性の育児休業取得
平均61週間 ※過去5年平均
(約1年2か月)

時差出勤・フレックス制度



出勤時間を3段階から選択できる時差出勤制度を導入。育児や介護などが必要な職員は、一定期間内の総勤務時間を変えることなく、始業・終業時刻及び1日の勤務時間を設定できる「フレックス制度」を利用できます。



フレックス制度利用者
10名 ※2024年度実績
主な理由：育児、介護、学び直し

もっと知りたい! 経済産業省 Q&A

Q. どのような人材を求めていますか？

A. 経済産業省は、幅広い分野を担当し、常に時代のニーズを先取りすることが求められるダイナミックな政策官庁です。当局は、困難な課題に挑戦し、最善を目指してカイゼンを続け、現場の意見を尊重する、挑戦志向・変革志向・現場主義に共感いただける人材を求めています。

Q. 職場の魅力はなんですか？

A. 経済産業省の魅力は、様々な分野で活躍できる業務の幅の広さです。広い分野に興味をお持ちの方、好奇心旺盛な方が、それぞれの得意分野を活かして働ける職場です。

Q. 行政系と技術系の職員で業務に違いはありますか？

A. 行政系であっても技術系であっても様々な業務に携わることができます。技術系の職員のなかには、各種規制業務や大学や公的研究機関と連携して技術開発を支援する場合など、大学等で学んだ専門知識を活かし活躍している方が多数います。

Q. 転勤や出向は？

A. 北海道の勤務地は札幌市です。また、原則、全ての職員が東京（霞が関）の経済産業省へ数年間の出向を経験します。そのほか、当局と同じ経済産業省の地方出先機関である北海道産業保安監督部や、民間企業・自治体等にも当局職員が出向し働いています。

Q. 異動はどのようになっていますか？

A. 概ね2～3年ごとのサイクルですが、若手職員には多くの業務を経験してもらうため1～2年で異動となります。毎年、各職員からは配属等に関する希望調書を提出してもらうほか、面談等を経て、各人が持てる能力を最大限に発揮できるような人員の配置を心がけています。

Q. ワークライフバランスについて教えてください

A. 出産・育児にあたっては、産前産後休暇や育児休業を取得することが可能です。また、テレワーク制度や総勤務時間は変えずに1日の始業・終業時刻を変更可能なフレックス制度など、仕事と家庭を両立させるための様々な制度があり、ワークライフバランスのとれた働き方ができます。



経済産業省
北海道経済産業局

Hokkaido Bureau of Economy, Trade and Industry

総務企画部 総務課人事係

〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目札幌第1合同庁舎 5階

TEL: 011-709-2311 (代) (内線2509)

<https://www.hkd.meti.go.jp>

